

【部会・分科会活動報告】 2018年9,10月度

食品 安全 研究 会	食品微生物研究部会	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会 進捗無し。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 NITE との協働研究体制について契約延長を検討中。</p> <p>(3) チルド勉強会 10/12 ILSI 会議室にて、勉強会（セレウス菌制御について及び今後の活動に関する打ち合わせを実施した。</p> <p>(4) 検査法標準化プロジェクト 検査法標準化プロジェクトの一環として、チルド勉強会活動の中で「セレウス菌耐熱性試験法の評価」に取り組む。</p> <p>(5) NGS プロジェクト 3/6 公開シンポジウムの開催に向け、演者と演題が概ね確定した。当日のプログラム案等について準備中。</p> <p>2. 次回研究部会開催について 11/20 (株)明治 明治イノベーションセンターにて第4回部会を開催予定。勉強会講師として元・日本缶詰びん詰レトルト食品協会 駒木先生にボツリヌス菌について講演いただく予定。</p>
	食品リスク研究部会	<p>1. ワーキンググループ活動</p> <p>1) 食品リスク評価課題解決 (WG3) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者が摂取する食品の安全性評価における課題抽出に向けた検討を進めた。食安委評価書からの情報収集及び医薬品の評価における事例抽出の取り組みを実施中であり、11月以降継続予定。 <p>2. プロジェクト活動</p> <p>1) ILSI Japan AAT-Prj (食品安全性評価領域の動物実験代替法推進プロジェクト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11/1 時点で14社参加。 ・ ILSI Europe 主催のワークショップ「動物実験の代替戦略を開発するための包括的アプローチ」にアカデミア委員3名、企業メンバー3名参加。 ・ プロジェクトキックオフ会議：10/2、13:30～ @味の素 (株) 川崎事業所にて参加企業、アドバイザー、アカデミア委員によるキックオフ会議開催。あわせて上記 ILSI Europe 主催のワークショップの参加報告会実施。26名参加。 ・ 京都合宿：10/26～27@京都にて今後の方向性を集中的に議論。5月実施インシリコ (HESS) 講習会実施の各社レビュー実施、NITE へフィードバック予定。企業メンバー18名参加。 ・ 勉強会：上記合宿にあわせ京大工学 鳥澤先生による講演会開催。演題：Organ-on-a-chip を用いた安全性・体内動態評価の動向 ・ 予定：2019年日本毒性学会のシンポジウムにてスピーカー派遣を検討中。 ・ 予定：2020年に ILSI Europe と協働で代替法に関する国際ワークショップをアジアで開催する方向で調整開始。

香料研究部会	
バイオテクノロジー研究会	<p>1. 2018年度 第4回目会議を9月3日に開催</p> <p>(1) ERAプロジェクト調査報告 第40号の勉強会： ・ 10報の論文をレビューし、意見交換を行った。</p> <p>(2) GM微生物食品について： ・ 進捗報告なし。</p> <p>(3) GM作物について： ・ 「日本におけるGM作物のERAの歴史」12月の第41号 ERA報告書と同梱し送付できるよう準備中。 ・ 2018年11月ERAワークショップ準備状況共有化 開催日は2018年11月7日～8日</p> <p>(4) ゲノム編集技術の最新動向についての勉強会 バイオ研究会の内部勉強会の位置づけで開催（参加者26名）。 講師：農研機構生物機能利用研究部門 遺伝子利用基盤研究領域 田部井豊先生</p> <p>2. 2018年度 第5回目会議を10月4日に開催</p> <p>(1) ERAプロジェクト調査報告 第41号の勉強会： ・ 10報の論文をレビューし、意見交換を行った。</p> <p>(2) GM微生物食品について： ・ 来春に「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップ開催計画について議論した。</p> <p>(3) GM作物について： ・ 「日本におけるGM作物のERAの歴史」 ご執筆者：林先生による報告会を開催することが決定された（来春）。 ・ 2018年11月ERAワークショップ準備最終状況共有化 ・ 2019 IS Biosafety Research（旧称：ISBGMO）への講師派遣 リスク評価に造詣の深い有識者を5～6名派遣し、報告していただく計画を策定（2019年4月1日～4日）。 ・ 「遺伝子組換え作物の生物多様性影響の競合における優位性に関する考察」が育種学研究に早期掲載された。</p> <p>(4) ISOTC34/SC16 総会ワークショップ開催について ・ 2010年の The 2nd plenary meeting of ISOTC34/SC16 Horizontal methods for molecular biomarkers analysis 国際会議ポストワークショップ「GMO検知技術の国際動向」の開催経緯を、(株)ファスマック布藤氏が説明。 ・ 2019年に日本開催が予定されているISO TC34/SC16総会にあわせて当研究会がワークショップを開催することを検討。</p> <p>(5) FY2019活動計画の策定 ・ 上記(2)および(4)記載のワークショップを含め、8件の活動計画について議論、策定を行った。(① ISOTC34/SC16総会ワークショップ ② ERAワークショップ ③ ゲノム編集ワークショップ ④ 高度に精製された添加物・食品ワークショップ ⑤ ERA報告事業 ⑥ 内部勉強会 ⑦ 生物多様性影響評価に関する論文投稿 ⑧ ISBR2019演者派遣)</p>

栄養健康研究会	栄養研究部会	<p>1. 2018年度 第4回 部会を開催 (10月11日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月26日に開催した第9回「ライフサイエンスシンポジウム」について、事務局と情報共有した。 第8回「栄養とエイジング」国際会議 (2019年10月開催予定) に向けて、プログラム委員会の状況について、事務局と情報共有した。 11月12日に予定されている研究会長・部会長会議での栄養研究部会からのプレゼンテーション内容について、情報共有した。
	GRプロジェクト	9月28日 15時~17時 ILSI Japan 会議室 GRプロジェクト報告会
	茶類研究部会・茶情報分科会	
食品機能性研究会		
	寄付講座 「機能性食品ゲノミクス」	9月18日 シンポジウム「機能性食品科学の基盤から実用化に至る総合的成果と新たな息吹き」開催 参加者約200名
健康な食事研究会	ワーキンググループ1 (WG1) 科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築	<ul style="list-style-type: none"> 10/2 東大佐々木研で打合せを実施 (参加者10名)。日本食の定義について、文献調査よりピックアップした283報を精査し、116報を対象に5基準に分類。 第1基準を「普遍的な日本食として定義されている;ある集団で開発された日本食の定義が別の集団で検証されている」に変更すると共に、定義された日本食をレベル別 (栄養素、食品、料理、食事) でも分類を終了した。 報告書として年内に ILSI Japan へ提出予定。 次回は11/22 東大佐々木研。
	ワーキンググループ2 (WG2) 外食・中食・給食の実態把握	<ul style="list-style-type: none"> 日本惣菜協会本部への訪問可能性の問合せと会員企業メールアドレスを入手。 3グループABCに分け、A赤松先生、B高田先生、C坂田先生を調査リーダーに活動することとし、質問紙を確定させた。9/14 (4名)・19 (7名)・25 (5名) の3日間で情報をメンバー全員に共有した。 10/22・23・11/2 に中食産業企業へのインタビューを実施。他の企業は調整中。 次回は12月を予定 (進捗確認)。
	ワーキンググループ3 (WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証	<ul style="list-style-type: none"> 健康経営に関して訪問候補企業のリスト化、健康経営活動企業への食に関するヒアリングの実施。 WG3 参加企業1社が1団体を訪問する予定で訪問先の調整中。(10月1社訪問済み。11月中に3社訪問予定) 次回は12月を予定 (進捗確認)。
	研究会全体	<ul style="list-style-type: none"> 9/10「健康な食事研究会」第6回全体会議を ILSI Japan 会議室で実施した (参加者21名)。各WGの進捗状況を確認し情報交換。2019年2月21日成果報告会発表、7月「イルシー」誌への掲載原稿締め切り、10月栄養とエイジング国際会議で発表、スケジュールに沿って、WG毎に勧めていく。 11月末に本部総会向けの進捗報告内容を各WG確認する予定。 次回は2/4 ILSI Japan 会議室 成果報告会発表内容。
C H P	Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト	◇ テイクテン (TAKE10!®) 9月11, 12, 14, 21, 25, 26日 すみだテイクテン教室 (スポーツプラザ梅若, 墨田区総合体育館, すみだ女性センター)

	<p>9月27日 すみだテイクテン自主グループサークル なでしこテイクテン (中ノ郷信用組合立花支店,墨田区)</p> <p>10月9, 10, 12, 23, 24, 26日 すみだテイクテン教室 (スポーツプラザ梅若, 墨田区総合体育館, すみだ女性センター)</p> <p>10月19日 すみだテイクテン自主グループ交流会 (すみだ女性センター)</p> <p>10月25日 第77回日本公衆衛生学会総会で発表「介護予防教室参加者の社会的孤立と食習慣、体操習慣との関連性について」(ビックパレットふくしま, 郡山市)</p>
Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト	<p>9月20日 NJPPP 事務局、都給食、ILSI Japan CHP で打ち合わせ。インドネシアでの「職場の栄養プロジェクト」を協働で11月に立ち上げることで合意した。10月のNJPPP 運営委員会での承認へ向けた準備を進める。(食品産業センター, 東京)</p> <p>10月1-8日 カンボジア職場の栄養プロジェクト:プロジェクト立ち上げに向け、取出が出張し、FNRI (フィリピン)、カンボジアのパートナーRACHA、政府等関係機関他と打ち合わせを行った。</p> <p>10月29日~11月3日, 人間総合科学大学 中西先生がカンボジア出張し、Baseline study を実施した。11月初めより栄養強化米を用いた介入試験(12週間)を開始する予定。</p>
CHP 全体	特になし
国際協力委員会	<p>委員会開催: 2018年10月17日(水) 16:00~17:30</p> <p>【議題】</p> <p>① BeSeTo 会議報告</p> <p>2018年9月13日(木)~14日(金)に台湾の台北で開催されたサテライトシンポジウムおよびBeSeTo 会議について、出席した委員より報告があった。</p> <p>アジェンダに沿って各セッションのハイライト、議論の内容などの概要が他の委員に共有された。同会議の詳しい報告は、「イルシー」誌に記載される予定である。</p> <p>なお、事務局から、次期ホストの東南アジア支部より次回のBeSeTo 会議を2019年9月24~27日にマレーシアのペナン(Penang)で開催する方向で計画中であるとの連絡があった旨の報告がされた。</p> <p>② 国際協力委員会今年の活動実績報告と、来年の活動予定: 国際協力委員会からの2018年の活動計画に対する実績報告と、2019年の活動計画につき、委員に共有された。</p>
情報委員会	<p>1. 委員会開催2回(9, 10月)</p> <p>2. ホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新(随時) <p>3. 「栄養学レビュー」誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 27巻1号(通巻102号): 翻訳、監修、編集(11/10刊行予定) ・ 27巻2号(通巻103号): 翻訳、監修(2019/2/10刊行予定)
編集部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「イルシー」誌136号原稿編集(10月→11月刊行予定) ・ 「イルシー」誌137号原稿編集(2019/01月刊行予定) ・ 138-140号原稿依頼検討、編集

【講演会・シンポジウムご案内】

講演会名	案内	担当研究部会
------	----	--------

ILSI Japan 食品微生物 研究部会 2019 公開シン ポジウム	「NGS の食品安全への展望」 ・開催日：2019 年 3 月 6 日 13:00-17:00 ・大田区民ホールアプリコ 小ホール	食品微生物研究部 会

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>○第 5 回理事会が、平成 30 年 10 月 19 日（金）に開催された。</p> <p><決議事項> 今回なし。</p> <p><報告・討議事項></p> <p>1. 研究会活動の活性化</p> <p>ア) 栄養とエイジング国際会議 趣意書を会員企業に配信し現在 18 社が参加する予定。</p> <p>イ) 健康な食事研究会進捗報告 第 6 回全体会議（9/10）でのワーキンググループごとの活動内容について報告した。</p> <p>ウ) 食品安全性評価領域の動物実験代替プロジェクト 10/2 にキックオフ会議を開催し、参加企業数は 14 社となった。内容としては、ILSI Europe が 9 月に開催したワークショップの内容報告、今後の予定等を情報共有した。</p> <p>エ) CHP 途上国の栄養改善について、NJPPP（栄養改善事業推進プラットフォーム）のプロジェクトとして、カンボジアにおける職場の栄養改善を目的とした活動を、人間総合科学大学、カンボジアの NGO（RACHA）らと共同スタディとして立ち上げた。栄養教育に TAKE10!®を活用する予定。また TAKE10!®の活動（墨田区受託事業 14 年目のスタート、島根県吉賀町受託事業、石巻専修大学学生による普及支援等）について報告した。</p> <p>オ) 会議実績報告と今後開催の会議連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第 9 回 ILSI Japan ライフサイエンスシンポジウム「健康寿命の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合」を 7/26 に東大弥生講堂にて開催。 ● 第 8 回「日本くすりと食品機能フォーラム（認定薬剤師研修講座）」を 7/29 に開催した。講演演題は、①「大豆タンパク質の補完医療としての役割」不二製油G本社、②還元型コエンザイム Q10 の生理活用～抗疲労・抗酸化・エネルギー産生（株）カネカ。 ● BeSeTo 会議 9/13～14 台北にて開催。日本から山口大学の豊福先生に「国際食品規格の微生物学的基準のガイドライン、微生物学的基準とリスクマネジメントの実例と日本での微生物学的基準の更新内容」と題し、講演いただいた。 ● 東京大学主催の寄付講座総括シンポジウムを、9/18 に開催。2019 年 3 月で、3 期 15 年の ILSI 寄付講座が終了。その成果と課題が浮き彫りになり、次の方向性が明確になる場とした。 ● バイオテクノロジー研究会 11/7～8 に ERA 国際ワークショップを開催予定。 <p>2. 2018 年収支見込、2019 年収支予算第 1 次案 当年の収支見込は、連結ベース（ILSI Japan と CHP の合算）では、</p>
-----	---

	<p>予算の収支より良くなる予定。しかし、収入に不確実な点があり、確認中。</p> <p>来年の収支は、「栄養とエイジング」国際会議の開催年に当たり、収支の悪化は避けられない状況であるが、なるべく収支差額の赤字を小さくし、確実なところを予算に反映するよう計画する。</p> <p>3. ILSI 本部関連報告</p> <p>8/22 に本部理事会が開催され、MANDATORY POLICY を改変し、すべての方針を統合、一元化することが決議された。各支部に順守義務がある。</p> <p>4. 外部連携</p> <p>宮澤会長より配付資料に基づき、東北大学未来科学技術共同研究センター (NICHe) のもとに計画する、戦略的食品バイオ未来産業拠点の構築について説明があった。</p>
事務局	特になし。